

レポーター
探訪記

涼風 わっぱ飾りできました

大河津小 伝統工芸の技に触れ 工作体験

地域に伝わる伝統工芸の「曲物」について学び、工作を通してその技に触れる「曲げわっぱ和紙飾りワークショップ」が、長岡市立大河津小学校で開かれた。

の授業として行われ、学校の呼び掛けで児童の保護者らも多数参加した。

寺泊コミュニティ推進協議会が企画し、県内で唯一の曲物製造元、足立茂久商店(長岡市寺泊山田)が工作キットを用意するなどして協力。出来上がった子どもたちの作品は学校近くの寺泊コミュニティセンター(寺泊敦ケ曽根)のロビーに飾られ、訪れる人たちの目を楽しませている。

授業ではまず、コミュニティ推進協議会のメンバーが製造現場を取材した映像で、曲物は薄い板状の木材を円形に加工して作られていること、寺泊山田集落は曲物の中でも「ふるい」作りが古くから盛んだったことなどが紹介された。

説明を受けた子どもたちは、直径10cmほどの曲輪と和紙を使って工作に挑戦。職人のように上手に張れた和紙にイラストを描いたり、色紙を貼ったりして、思い思いのデザインに仕上げた。

工作キットは、二つの曲輪(わっぱ)の間に金網を挟み込んで固定する、ふるいの製造工程を体験できるもの。わずかに直径が異なる曲輪を重ね合わせ

て押し込むことで、網は枠の端まで均一にピンと張れる。

わっぱ飾りに願い事を書いた短冊と鈴を付けたのは寺泊コミセンのオリジナル仕様で、この日は早速、教室の窓辺に並べて飾った。子どもたちも出来栄えに満足そうだった。

市の無形文化財で、新潟県伝統工芸品にも指定されている「寺泊山田の曲物」。今回のワークショップは6年生の総合学習

で固定する、ふるいの製造工程を体験できるもの。わずかに直径が異なる曲輪を重ね合わせ

寺泊コミセンの作品展示は22日まで。また同コミセンの池の周辺では、職人の足立照久さんが曲物を作る技術で制作したオブジェ「曲輪の球体」も展示している。夕方から夜はオブジェの中に仕込んだLEDキャンドルが点灯し、幻想的な雰囲気、伝統工芸品の新たな一面を楽しめる。いずれも観覧無料。



ふるいを作る要領で曲輪に和紙を張り、願い事を書いた短冊を付けて完成



県の伝統工芸品・寺泊山田の曲物について学び、小さな曲輪と和紙で涼しげなつるし飾りを作った